

令和元年度第2回 帯広市行財政運営ビジョン検討委員会 議事要旨

日時：令和元年7月30日（火）午後1時30分～午後2時40分

場所：帯広市役所 10階 第6会議室

■ 出席委員

岩崎委員、河西委員、仙北谷委員、坪委員、鳥井委員、三品委員（五十音順）

■ 事務局

総務部行政推進室 河原室長、松原主幹、中橋行政推進主幹、中山主任補

■ 傍聴者等

報道関係者1名

■ 次第

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 帯広市行財政運営ビジョンの取組状況について
 - (2) 帯広市行財政改革計画（骨子案）について
 - (3) その他
- 3 閉会

■ 委員からの意見等

（1）帯広市行財政運営ビジョンの取組状況について及び（2）帯広市行財政改革計画（骨子案）について

- ・財政シミュレーションに関しては、生産年齢人口が減少する中で、市債をどのように計画的に償還していくのか、現実的な数字を見ながら考え方を持たなければならない
- ・人口の変化は直線的に増減するものではないので、将来、加速度的に人口が減っていく局面もあり得る。そのあたりも見据える必要がある
- ・各分野の個別の計画を連携させることはなかなか難しいと思われる、行財政改革計画のような横串を刺すタイプの計画では、ベースとなる人口などの数値について、「帯広市人口ビジョン」といったベースとなるものをしっかり据えるべき
- ・「人口の制約」や「より少なくなる職員体制」という表現は、「人を減らす」というニュアンスが強すぎるのではないか。意味合いとしては、「長期的には人口減少によって減らざるを得ない」ということでは
- ・時間外勤務時間の内訳について、「何に時間を費やしているか」という要因を内外から徹底的に分析したうえで見直していかないと、時間外は減っていかないと思う
- ・時間外勤務を減らす必要は各々で感じていても、目先の残業にとらわれて、先のことが見えなくなりやすいと思う。取り組みを進めようとしても、仕事や作業が増え、結局のところ時間外勤務が増えてしまうようでは、何も進まなくなってしまうのではないかと、という危惧をもっている
- ・「行政サービスの継続的な見直し」は、少なからず毎年行っていることであり、「改革」という言葉を使う以上、それ以外の取組を行うという意味になるのかと思う。「改革」という強い言葉を使うだけの中身になるようにすべきだと思う
- ・大きな目で仕組みを変えていくような計画になることを期待する

- ・具体的な取組とその結果を評価できる成果指標をどのように設定するかが課題である
- ・民間委託を進めても、結局、市の歳出として変わらず、財政規模も変わらないのではと思う
- ・空港などの商業的要素を含む行政サービスは、民間委託によって市が収入を増やせるようなものもあると思うが、一方で、保育所など、そうした考え方がなじまないものもあるなかで、バランスをとっていかなければならない
- ・骨子では、現在の状況が羅列され、基本的な方向性が打ち出されているなかで、シミュレーションや分析手法の適切性がキーになっていくと思うが、示された2本の柱だけでよいのかと感じる。ここをつなぐ部分についても、骨子から計画を作っていく中で、慎重に検討を進める必要があると思う
- ・第七期の総合政策では、本計画は市の事業全体を見渡すような位置付けになるとのことだが、5年間という計画期間の繰り返しでは、中期的な視野を持つことは可能でも、長期的なビジョンとまでは言えないのではないかと感じる。長期ビジョンを立てる作業が必要ではないか